ISSN 1881-5464

JSBMS Letters

Vol.39 Supplement, 2014

第39回 日本医用マススペクトル学会年会

The 39th Annual Meeting of the Japanese Society for Biomedical Mass Spectrometry

プログラム・抄録集

年会長　野村　文夫（千葉大学大学院医学研究院　教授）

会　期　2014年10月16日（木）・17日（金）

会　場　三井ガーデンホテル千葉

Japanese Society for
Biomedical Mass Spectrometry

日本医用マススペクトル学会

第39回日本医用マススペクトル学会年会開催にあたって

この度日本医用マススペクトル学会第39回年会を担当させていただくことになりました。本学会は質量分析法を用いて広く生命科学に関する研究の進歩・発達をはかると同時に医療に役立てることを目的として1976年に発足しました。質量分析法の臨床応用は近年急速に進んでいます。質量分析技術がすでに実際の医療に直接結びついている成功例として、１）先天代謝異常のマススクリーニングと化学診断、２）医薬品のTDM、薬物中毒・法中毒診断、３）臨床化学検査、４）MALDI-TOF MSによる微生物同定などがあげられます。

質量分析技術はプロテオミクスの領域でも最重要の手法となっています。そこで、特別講演には我が国を代表するプロテオミクス研究者である横浜市立大学の平野久先生をお招きしました。３つのシンポジウムでは、１）タンデムマスを導入した新生児マススクリーニングの現状と課題、２）質量分析による薬物毒物の中毒診断の現状と展望、３）MALDI-TOF MSによる病原微生物の迅速同定の最前線、を取り上げました。そして教育講演ではイムノアッセイを凌駕する手法として臨床化学検査現場への導入が期待されているLC-MS/MSに焦点をあてて、東達也先生（東京理科大学）とDayan Goodenowe先生（Phenomenome Discovery Inc., Canada）にお話しいただく予定です。

学術集会の主役は一般演題です。おかげさまで60題の多数の演題のご応募をいただきましたので、ポスター討論は２日間にわたり行う予定です。また、今回も多数の企業の方々の協賛を得ることができ、６つのセミナーと19ブースの展示のご提供をいただきました。展示企業によるテクニカルフォーラムも予定されています。

質量分析が直接臨床検査として診療で利用される機会が加速しつつあります、そこで、日本医用マススペクトル学会では、共通の基盤を持つ検査担当者の人材育成と臨床検査法としての質量分析技術の普及・標準化を目的として、昨年度より医用質量分析認定士制度とその講習会をスタートさせ、すでに80名余りの認定士が誕生しています。今年も年会翌日の10月18日に第２回講習会と認定試験を実施する予定です。

最後になりましたが、本年会の開催に向けてご支援いただきました本学会の役員・会員の皆様、協賛いただきました企業各社に心より感謝いたします。

本学術集会がご参加の皆様にとって実りあるものとなることを願っています。よろしくお願いいたします。

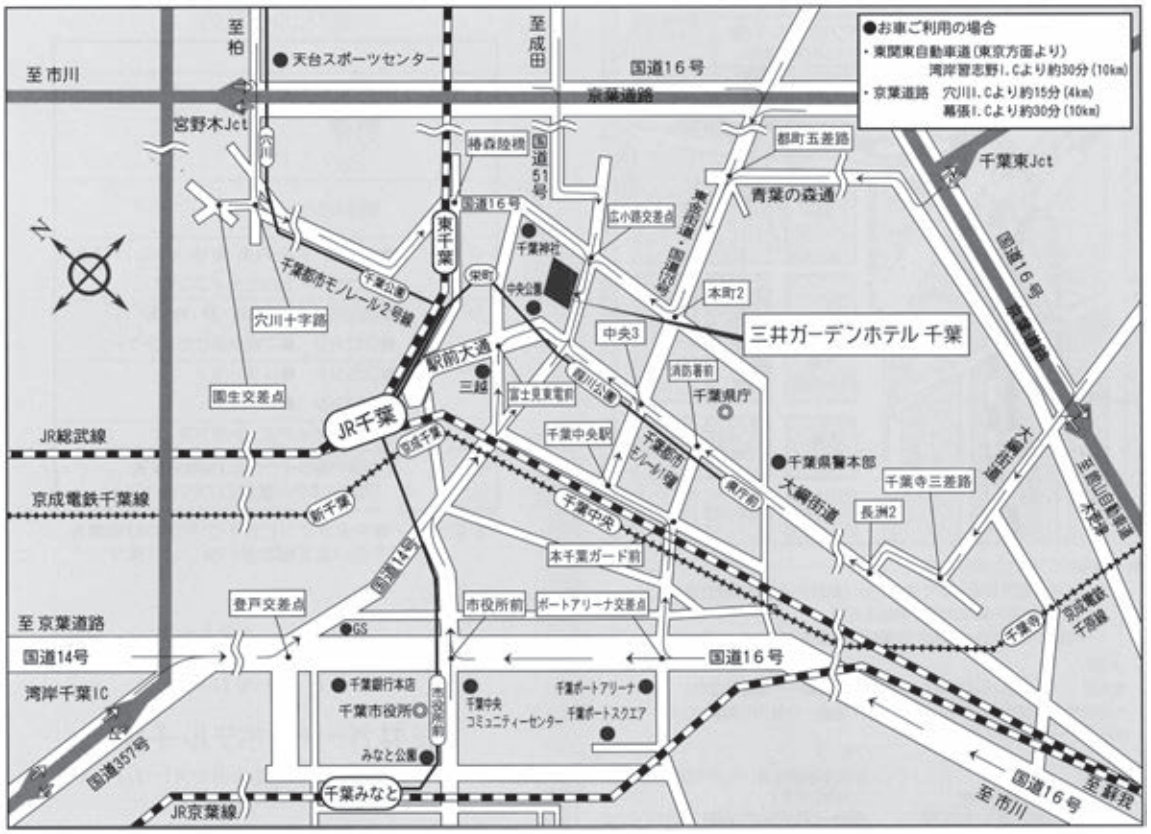
第39回日本医用マススペクトル学会年会
年会長　野　村　文　夫

千葉大学大学院医学研究院分子病態解析学　教授
千葉大学医学部附属病院検査部・遺伝子診療部　部長

会場までの交通アクセス

【会　場】三井ガーデンホテル千葉

〒260-8626　千葉市中央区中央１－11－１（千葉中央公園前）



館内のご案内

17F	
16F～12F	客　室
5F	朝日カルチャーセンター
4F	●宴会場　天平・白鳳・楓・桂・カトレア・羽衣 ●プラザハートウエディングサロン
3F	●宴会場　平安・飛鳥・葵・藤・萩 ●クローク　●ご宴会承りカウンター
2F	●フロント　●レストラン ●ラウンジ　●バー
1F	ホテルメインエントランス
B1 B2	千葉中央ツインビル1号館駐車場 （入口はホテル裏側にございます）

●交通機関ご利用の場合

・JR千葉駅下車東口より徒歩7分（駅前大通りを県庁方面へ）
・京成千葉線千葉中央駅下車徒歩5分
・千葉都市モノレール蘇川公園駅下車徒歩2分

・JR線
東京駅　→千葉駅 快速約40分
木更津駅→千葉駅 快速約40分
成田駅　→千葉駅 快速約30分

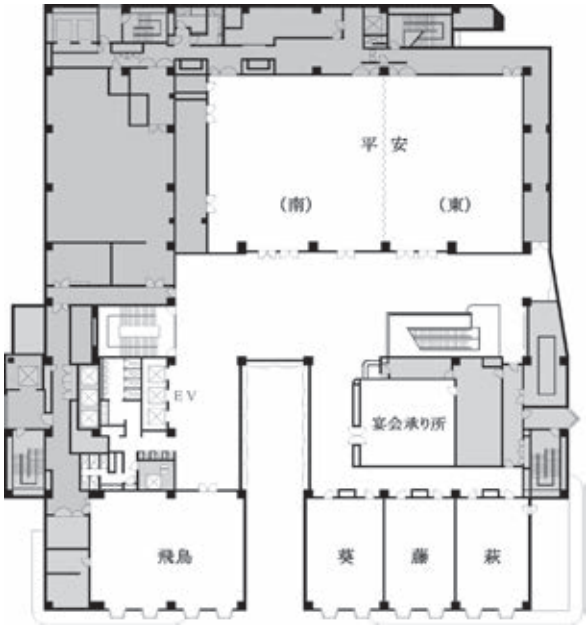
・京成線
京成上野駅→千葉中央駅
特急（津田沼乗り換え）約50分

・千葉都市モノレール
千城台駅→千葉駅約30分
千葉駅　→蘇川公園駅約2分

・バ　ス
新東京国際空港（成田空港）→JR千葉駅約60分
羽田→（稲毛海岸）→JR千葉駅約60分

第39回日本医用マススペクトル学会年会会場見取り図

● ３階フロア図



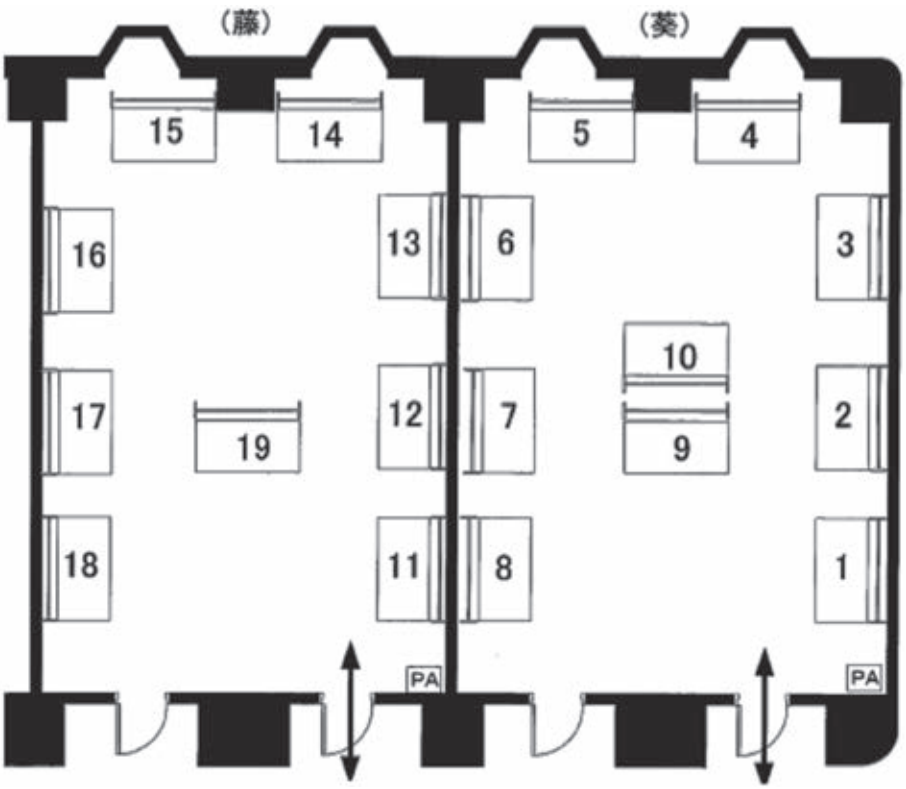
● ４階フロア図

懇親会場のご案内

【日時・場所】

16日（木）18：30～　三井ガーデンホテル千葉　４階　宴会場　天平

企業展示配置図



1．株式会社エスアールエル

2．アジレント・テクノロジー株式会社

3．ジーエルサイエンス株式会社

4．大塚製薬株式会社

5．株式会社エービー・サイエックス

6．シスメックス・ビオメリュー株式会社

7．株式会社資生堂

8．日本電子株式会社

9．エーエムアール株式会社

10. 日本ウォーターズ株式会社

11. 株式会社エル・イー・テクノロジーズ

12. 株式会社島津製作所

13. ニットーボーメディカル株式会社

14. サーモフィッシャーサイエンティフィック株式会社

15. ブルカー・ダルトニクス株式会社

16. 大日本住友製薬株式会社

17. Phenomenome Discoveries Inc.

18. シグマアルドリッチジャパン合同会社

19. バイオタージ・ジャパン株式会社

年 会 案 内

【会　場】年 会 会 場：三井ガーデンホテル千葉
メイン会場：３階　平安
展 示 会 場：３階　飛鳥（ポスター）、３階　葵・藤（企業展示）
懇親会会場：４階　天平

・参加登録済みの方は、受付で名札をお渡しします。当日参加の方は、受付にて参加費をお支払ください（正会員：7,000円、非会員：12,000円、学生会員：3,000円）。年会期間中は必ずネームプレートを着用ください。

【座長の方へ】担当時間の10分前には、会場内の次座長席にお越し下さい。

【演者の方へ】
・講演時間は、シンポジウムの座長の指示通りにお願い致します。
テクニカルワークショップの講演時間は５分です。
・発表時間の厳守をお願いします。

〇発表時のご注意とお願い
・すべて PC（PowerPoint）による発表となります。
・PC スライド受付での発表データ受付終了後、発表30分前までにご講演会場内の次演者席にお越しください。
・演台上にレーザーポインターを用意いたしますので、ご使用ください。

〇発表データ受付について
・ご発表の30分前までに、PC スライド受付にて発表データ確認・提出をお願いいたします。
・ご発表前に、PC スライド受付にて、発表データの動作確認を行っていただきます。原則としてメディア（USB フラッシュメモリ）にて、発表データをご持参ください。メディア（USB フラッシュメモリ）は試写終了後、返却いたします。会場での提出は必要ありませんが、念のため会場にはご持参ください。
・お預かりした発表データは、発表用パソコンにコピーさせていただきますが、本学会年会プレゼンテーション以外に使用することはありません。学会終了後、年会事務局が責任を持って消去いたします。

○発表データ受付時のご注意

・動画や音声をご使用になる場合は、必ずオペレーターに申し出てください。

・データをハードディスクにコピーし、試写用パソコンにて動作を確認してください。

・PCスライド受付でのデータの修正、変更はできません。

・ウイルス定義データを最新のものに更新した状態のセキュリティソフトにて必ず事前にご自身でウイルスチェックをお願いします。PCスライド受付で、持ち込まれるメディア全てをウイルスチェックさせていただきます。

・PCスライド受付での発表データ受付後にデータを書き換えられた場合は、再度PCスライド受付にお越しください。再度、試写及びデータ受付をさせていただきます。

○データ（USBフラッシュメモリ）を持参される方へ

・お持ち込みいただけるデータは、原則としてUSBフラッシュメモリのみです。

・また、ご自身のパソコン以外で文字化け等がなく、データを読み込めるか必ずご確認ください。

・発表時のトラブルを防ぐためにも、持ち込まれるメディアには、発表用のデータ（完成版）以外入れないようにしてください。ファイル名は「演題番号・演者名.ppt」または「演題番号・演者名.pptx」としてください。

・会場でご用意するパソコン

OS：Windows 7

アプリケーション：PowerPoint2013

・発表に使用できるデータ

Microsoft PowerPoint2003以降で作成されたファイル（発表者ツール機能はご使用になれません）

上記以前のバージョンで制作されたものは、表示に不具合が発生する可能性があります。

・文字のフォント

日本語：MSゴシック/MSPゴシック/MS明朝/MSP明朝の4種類のみ。

英　語：Times New Roman/Arial/Ariel Black/Ariel Narrow/Century/Century Gothic/Courier/Courier New/Georgiaの合計9種類のみ。

上記以外のフォントを使用された場合は、表示に不具合が発生する可能性があります。

・画面の解像度はXGA（1024×768）です。これより大きい場合、スライドの周囲が切れてしまいます。また、画面のぎりぎりまで使用すると再現環境の違いにより文字や画像のはみ出し等の原因になることがあります。

・動画を使用する場合、スライドファイルと動画データを一緒に保管してください。なお、動画ファイルはWindows Media video（WMVファイル）形式とし、拡張子（.wmv）を必ずつけてください。

◯パソコンをご持参される方へ

・コネクタの形状はアナログVGA（D-Sub15ピン）に限ります。変換ケーブルが必要な機種（Macintosh等）をご使用の場合は、変換ケーブルを必ずご持参ください。変換ケーブルの用意は致しかねます。

・ご自身のパソコンから外部モニターに正しく出力できることを確認してください。個々のパソコンやOSにより設定方法が異なりますので、事前にご確認ください。

・画面の解像度はXGA（1024×768）です。これより大きい場合、スライドの周囲が切れてしまいます。

・発表中にスクリーンセーバーや省電力モードにならないよう事前に設定をお済ませください。

・電源コンセントを用意しておりますので、必ず電源ケーブルをお持ちいただき、バッテリーでのご発表はご遠慮ください。

・ご自身のパソコンから試写用プロジェクターに、発表データが正しく出力できることを確認してください。特に動画、画像データは、本体画面には表示されても、外部出力に接続した画面には表示されない場合があります。十分に注意してご確認ください。

・ご自身のパソコンは、試写終了後、一旦お返しいたしますが、プログラム開始30分前までにPCスライド受付までご自身でご持参になり、発表に備えてください。

・プロジェクターへの接続はスタッフが行いますが、発表時の操作は、発表用PCのモニターをご覧になりながら、キーボード・マウスにてご自身で行ってください。

・発表後はPCスライド受付にて、パソコンをお受け取りください。

・万が一のトラブルの場合に備え、予備としてのデータ（USBフラッシュメモリ）を持参頂きますようお願い致します。

【ポスター発表の方へ】

・10月16日（木）9：00～12：30までに、御自分の演題番号のパネルにポスターを掲示してください。演題番号は抄録集に掲載されています。

・ポスター発表・質疑応答は演題番号が

　　奇数の方は、10月16日（木）12：55～13：55に、

　　偶数の方は、10月17日（金）13：00～14：00に予定しております。

開始15分前までにポスター会場へお越しください。

・所定の発表時間中は、ポスター前で質疑応答をお願い致します。

・撤去はポスター討論後、10月17日（金）15時までにお願いします。撤去時間が過ぎても放置されたポスターは年会事務局で撤去し、年会事務局で会期終了後に処分します。取り置きや郵送、宅急便などによる返却は行いません。

・ポスターの作成要領

a）ポスターのサイズは横90cm × 縦190cm以内でお願いいたします。

b）演題番号はあらかじめ年会事務局で用意し、掲示してあります。
演題番号の掲示の下にポスターを貼ってください。押しピンは事務局で用意いたします。

c）ポスターには演題名（日本語、英語）、所属、氏名を必ず明記してください。

d）たとえその場に演者が居なくても、見る人が理解できるようにわかり易く、本文を目的、方法、結果、考察、まとめ等に分け、さらに図表、写真には必ず表題を付けてください。また、文字の大きさを2m離れても判読可能なよう、サイズに注意し、明確に書いてください。

e）内容をわかり易くするため、強調したい部分を着色するなど、工夫してください。

f）ポスター（一般演題）の発表者は、ポスターの末尾にて下記のように本発表内容に関する利益相反（COI）状態の開示をお願いいたします。提示する内容は以下の通りです。
詳細および様式のテンプレートは、第39回医用マススペクトル学会年会ホームページからダウンロードできます。

様式１：筆頭演者の利益相反自己申告書
【ポスター発表におけるCOI状態の開示】
※ポスターの末尾に以下のように開示する

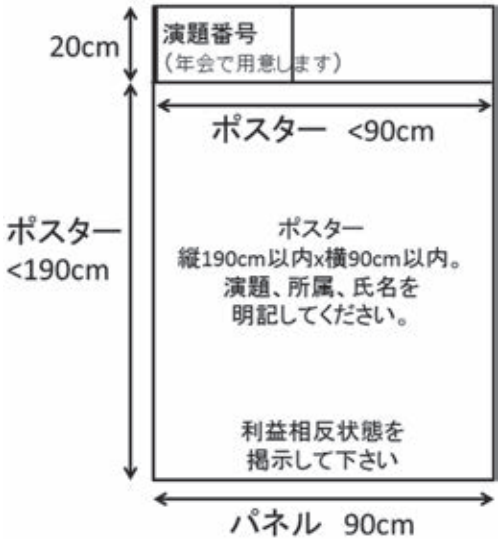
利益相反状態の開示
開示すべき利益相反状態はありません。

または、

利益相反状態の開示
開示すべき利益相反状態として、

役職・顧問職 ： AB製薬株式会社
株式保有 ： CD製薬株式会社
特許使用料 ： なし
研究費受託 ： EF医薬株式会社
講演料 ： GHメディカル株式会社
原稿料 ： なし

・なお、第39回日本医用マススペクトル学会年会では、若手研究者（35歳以下）の優れたポスターに「若手優秀ポスター賞」を贈ります。詳細は、別に示す通りです。



【懇親会】

・懇親会は、16日（木）18:30より、４階　天平にて行います。
　当日参加者は、年会受付にて懇親会費をお支払下さい（7,000円）。

【理事会】

・理事会は15日（水）14:30より、三井ガーデンホテル千葉３階　萩にて行います。

【評議員会・総会】

・評議員会は16日（木）11:55～12:35、４階　白鳳にて行います。
・評議員会にて、「若手優秀ポスター賞」の投票用紙を配布します。セミナー参加等で評議員会を欠席される方は、投票用紙を年会受付にて、16日13時までにお受け取り下さい。
・総会は16日（木）15:05～15:45、メイン会場（３階　平安）にて行います。

【問い合わせ先】

第39回日本医用マススペクトル学会年会事務局
（TEL 043-226-2170、E-mail: jsbms39.gim.chiba＠gmail.com）

【年会参加者へのお願い】

・ご来場には公共交通機関をなるべくご利用ください。万一、ホテル駐車場が満車の際にも、提携駐車場などの準備はございませんので、あらかじめ御了解ください。
・16日（木）開会の辞前後の受付は、大変な混雑が予想されます。受付を早め（午前９時）に開始いたしますので、どうぞ余裕を持ってお越し頂けますようお願い申し上げます。
・モーニング・ランチョンセミナーの後は、係員が企業アンケートやお弁当ゴミの回収を行いますので、御協力下さい。

ポスター発表者各位

本年も若手研究者（35歳以下）の優れたポスターに「若手優秀ポスター賞」を贈ります。

【若手優秀ポスター賞の審査および受賞者の発表方法】

演題申込みの際に、若手優秀ポスター賞へ応募のあった、対象演題に目印を致します。投票用紙は評議員会にて配布し、投票箱はポスター会場入り口に設置しますので、評議員の方は投票をお願いします。投票締切は、10月16日（木）16時までででお願い致します。10月16日（木）の懇親会にて表彰式を行います。

各ポスター発表者は、下記の条件にご留意ください。

〇ポスター発表時間を厳守してください。

〇演題は日本語と英語を併記してください。

〇図中の文字と図のキャプションは必ず英語で記載してください。

〇既定の時間までにポスターを掲示し、また規定の時間より前に撤去しないでください。

【審査基準】

以下の審査基準をもとに、総合的に判断します。

〇研究の質に関する基準項目

・研究の有用性

・新規性、独創性

・実験の組み立ての妥当性。実験系を用いた発表については、総合的な発表の評価。

・科学的な錯誤がないか。

〇プレゼンテーションに関する基準項目

・ポスターを見渡して、説明を聞かなくても要点をすぐに理解することができるかどうか。

・文字や図の大きさが適当か。ある程度離れていても解読できるか。

・図表の英語説明が理解できるか。

・情報が過多ではないか。

・用語が正しく使用されているか。

・その他、体裁が規定を逸脱していないか。

日 程 表

2014年10月16日（木）		場　所
9:00～	受付開始	ロビー　（３Ｆ）
9:50～ 9:55	開会の辞（年会長）	平安南　（３Ｆ）
9:55～11:35	シンポジウム(1)	〃　（３Ｆ）
11:55～12:35	評議員会	白　鳳　（４Ｆ）
	ランチョンセミナー	平安南・東（３Ｆ）
12:55～13:55	ポスター発表（奇数演題）	飛　鳥　（３Ｆ）
14:10～14:50	教育講演(1)	平安南　（３Ｆ）
15:05～15:45	総　会	〃　（３Ｆ）
16:00～17:30	シンポジウム(2)	〃　（３Ｆ）
17:40～18:20	教育講演(2)	〃　（３Ｆ）
18:30～20:30	懇親会	天　平　（４Ｆ）
2014年10月17日（金）		**場　所**
8:30～	受付開始	ロビー　（３Ｆ）
9:00～ 9:40	モーニングセミナー	平安南・東（３Ｆ）
10:00～11:40	シンポジウム(3)	平安南　（３Ｆ）
12:00～12:40	ランチョンセミナー	平安南・東（３Ｆ）
13:00～14:00	ポスター発表（偶数演題）	飛　鳥　（３Ｆ）
14:15～15:05	招待講演	平安南　（３Ｆ）
15:10～15:30	奨励賞受賞講演	〃　（３Ｆ）
15:45～17:15	テクニカルワークショップ	〃　（３Ｆ）
17:15～	閉会の辞（年会長）	〃　（３Ｆ）

○2014年10月18日（土）

日本医用マススペクトル学会主催 医用質量分析認定士第２回講習会を三井ガーデンホテル千葉（３階　平安）にて開催いたします。

参加費は当日受付にてお支払い下さい。
（一般 5,000円、年会参加者 3,000円〈年会参加証をご提示下さい。〉）
講習会参加証は認定の際必要となりますので講習会後も保管して下さい。

日本医用マススペクトル学会
医用質量分析認定士 第2回講習会

日時：2014年10月18日（土）（第39回日本医用マススペクトル学会年会翌日）
場所：三井ガーデンホテル千葉（http://www.gardenhotels.co.jp/chiba/）

10:00～10:05　**開会の辞**　　丹羽利充（日本医用マススペクトル学会理事長）

10:05～10:55　講義1　質量分析の基礎（用語説明、原理、機種など）　中西豊文（大阪医科大学）

10:55～11:45　講義2　質量分析技術で変わる臨床化学検査　千葉仁志（北海道大学）

12:00～13:00　ランチョンセミナー（サーモフィッシャーサイエンティフィック株式会社）
新生児マス・スクリーニングにおける質量分析の基礎とその応用
～先天代謝異常症の赤ちゃんのQOLをあげるために～
中島英規（独立行政法人国立成育医療研究センター）

13:10～14:00　講義3　臨床細菌検査における質量分析の役割と今後の展望　菊池　賢（東京女子医科大学）

14:10～14:20　医用質量分析認定士制度の概要説明

14:20～14:40　試験

14:40　閉会

◆受講料　5,000円（資料代を含む）
（10月16日、17日開催の第39回日本医用マススペクトル学会年会登録者は3,000円）
年会ホームページ（http://www.m.chiba-u.ac.jp/class/moldiag/jsbms39/jsbms39_index.html）に関連情報を掲載します。

年会・講習会事務局
千葉県千葉市中央区亥鼻1-8-1　千葉大学医学部本館1F
TEL：043-226-2170　FAX：043-226-2169
E-mail：jsbms39.gim.chiba@gmail.com

参考図書「医用質量分析ガイドブック」
（2013年12月発刊　診断と治療社）

認定要件
1. 日本医用マススペクトル学会会員であること
2. 日本医用マススペクトル学会主催の医用質量分析認定士講習会に参加し、筆記試験に合格すること。筆記試験は講習会における講義内容から出題する。

主催　日本医用マススペクトル学会
後援　日本臨床衛生検査技師会、千葉県臨床検査技師会

プログラム

10月16日（木）
9：00　　受付開始
9：50 - 9：55　開会の辞

9：55 - 11：35　シンポジウム（1）：
「タンデムマスを導入した新生児マススクリーニングの現状と課題」
オーガナイザー（座長）：山口清次（島根大学医学部小児科）

S1－1　「タンデムマス・スクリーニングの診断精度の向上」
重松陽介[1]、畑　郁江[2]（[1] 福井大学医学部健康科学、[2] 福井大学医学部小児科学）

S1－2　「タンデムマス対象疾患の臨床的特徴」
高柳正樹（千葉県こども病院小児救急総合診療科）

S1－3　「検査機関におけるタンデムマス分析精度管理」
花井潤師[1]、福士　勝[2]、石毛信之[3]、田崎隆二[4]（[1] 札幌市衛生研究所、[2] 札幌イムノダイアグノスティックラボラトリー、[3]（公財）東京都予防医学協会、[4]（一財）化学及血清療法研究所）

S1－4　「タンデムマススクリーニングにおけるsecond tier testの開発」
中島英規[1]、石毛信之[2]、穴澤　昭[2]、奥山虎之[1]、藤本純一郎[1]、重松陽介[3]、山口清次[4]、原田正平[1]（[1] 国立成育医療研究センター、[2] 公益財団法人東京都予防医学協会、[3] 福井大学医学部健康科学、[4] 島根大学医学部小児科）

11：55 - 12：35　ランチョンセミナー

ランチョンセミナー1：大日本住友製薬株式会社
LS－1　「ファブリー病の診断と治療」
（平安･東）　小林博司（東京慈恵会医科大学総合医科学研究センター遺伝子治療研究部）

ランチョンセミナー2：サーモフィッシャーサイエンティフィック株式会社
LS－2　「高分解能質量分析計Orbitrapを用いた先天性代謝異常症検体のメタボローム解析」
（平安･南）　中島英規[1]、高原健太郎[2]、窪田雅之[2]、小須賀基径[1]、奥山虎之[1]、小野寺雅史[1]、藤本純一郎[1]（[1] 国立成育医療研究センター、[2] サーモフィッシャーサイエンティフィック株式会社）

12：55 - 13：55　ポスター発表（3階　飛鳥）

【奇数演題】

P－1　「GC/MSとLC/MSMS同時分析による乾燥濾紙血の代謝プロファイル解析」
張　春花（ミルスインターナショナル　研究開発部）

P－3　「LC/MS/MSを用いた先天性副腎過形成症スクリーニングの確認検査」
稲岡一考[1,5]、藤田　宏[1]、中村しのぶ[1]、竹島清美[1]、笠原敏喜[1]、竹内　真[1]、和田芳直[1]、小梶哲雄[2]、藤峰慶徳[3]、関根和人[4]、原田正平[5]、重松陽介[6]（[1] 大阪府立母子保健総合医療センター、[2] 株式会社エービー・サイエックス、[3] 大塚製薬株式会社、[4] 栄研化学株式会社、[5] 国立成育医療研究センター、[6] 福井大学）

P－5　「LC/MSによる誘導体化脂肪酸の分析」
惠　淑萍[1]、ロジート・シュレスタ[1]、平野賢一[2]、 鈴木　朗[2]、千葉仁志[1]（[1] 北海道大学 大学院保健科学研究院、[2] 大阪大学 大学院医学系研究科 内科学講座 循環器内科学）

P－7　「新たな高精度・網羅的スクリーニングによるノンターゲット型のリピドミクス」
池田和貴[1,2,3]、津川裕司[4]、山中早苗[2,3]、有田正規[4]、有田　誠[1]、冨田　勝[2]、曽我朋義[2]（[1] 理化学研究所 統合生命医科学研究センター（IMS）メタボローム研究チーム、[2] 慶應義塾大学 先端生命科学研究所、[3] JST-CREST、[4] 理化学研究所 環境資源科学研究センター（CSRS）メタボローム情報研究チーム）

P－9　「マウス各臓器におけるAcyl-CoA synthetase活性と薬物による影響」
山下琢矢、佐藤宏樹、三浦　翠、糟谷史代（神戸学院大学薬学部）

P－11　「血漿中25-hydroxyvitamin D_3 3-sulfateのLC/ESI-MS/MS定量法の開発」
後藤彩佳[1]、諸橋美里[1]、小松賢司[2]、杉浦崇浩[2]、小川祥二郎[1]、東　達也[1]（[1] 東京理科大学薬学部、[2] 静岡済生会総合病院）

P－13　「LC-MS/MSによる血清中estradiolの高感度測定法の開発」
笹本英彦、宮代好通（株式会社あすか製薬メディカル）

P－15　「イムノアフィニティー抽出DAPTAD誘導体化LC-MS/MSによる血清25OH-ビタミンDおよび1,25$(OH)_2$-ビタミンDの同時定量」
石毛崇之[1]、佐藤　守[2]、小川祥二郎[3]、西村　基[1]、土田祥央[2]、澤井　摂[1]、松下一之[1]、東　達也[3]、野村文夫[1,2]（[1] 千葉大学大学院 医学研究院 分子病態解析学、[2] 千葉大学大学院 医学部附属病院 疾患プロテオミクスセンター、[3] 東京理科大学 薬学部 臨床分析科学研究室）

P－17　「GCMSを用いた心不全バイオマーカー探索」
入野康宏[1]、杜　隆嗣[1]、森　健茂[2]、長尾　学[2]、本庄友行[2]、小林成美[2]、新家俊郎[2]、石田達郎[2]、宮田興子[3]、平田健一[1,2]（[1] 神戸大学大学院医学研究科立証検査医学分野、[2] 神戸大学大学院医学研究科循環器内科学分野、[3] 神戸薬科大学薬品化学研究室）

P－19　「超高速LC/MS/MSによる水質有害性暴露したヒト培養細胞中の酸化ストレス関連物質の分析」
平林由紀子、西村彩子、五十嵐由美子（株式会社 日立製作所 中央研究所）

P－21　「メタボロミクスによる非アルコール性脂肪性肝炎に対する治療薬の探索」
西海　信、寺島禎彦、東　健、吉田　優（神戸大学大学院医学研究科内科学講座消化器内科学分野）

P－23　「アルツハイマー病脳・血液のターゲットメタボロミクス解析」
井之上浩一[1]、赤津裕康[2]、土屋浩史[1]、高山卓大[1]、松川則之[2]、橋詰良夫[3]、山本孝之[3]、豊岡利正[1]（[1] 静岡県立大学薬学部、[2] 名古屋市立大学医学部、[3] 福祉村病院長寿医学研究所）

P－25　「新規前立腺がんマーカーとしての尿中PSAのC末端ペプチド」
中山憲司[1]、井上貴博[1]、関谷禎規[2]、寺田直樹[1]、宮崎　有[1]、後藤崇之[1]、梶原茂樹[2]、川畑慎一郎[2]、岩本慎一[2]、田中耕一[2]、小川　修[1]（[1] 京都大学大学院医学研究科 泌尿器科学教室、[2] 島津製作所 田中最先端研究所）

P－27　「ネコ慢性腎不全における尿を用いた早期診断マーカーの探索」
前田浩人[1]、前川武大[2]、柴田悠衣[2]、阿部沙織[1]、堀江和香[1]、望月俊輔[3]、渡辺俊文[3]、佐藤　守[4]、三田明弘[2]、野村文夫[4]、曽川一幸[2,3]（[1] 前田獣医科医院、[2] 麻布大学生命・環境科学部、[3] 麻布大学付属動物病院、[4] 千葉大学大学院医学研究院）

P－29　「キウイフルーツアレルギーにおけるアレルゲンタンパク質の解析」
河原彩花[1]、曽川一幸[1]、佐藤　守[2]、三田明弘[1]、下条直樹[2]、野村文夫[2]（[1] 麻布大学生命・環境科学部、[2] 千葉大学大学院医学研究院）

P－31　「血中免疫グロブリン結合成分を対象としたペプチドーム解析法の確立と応用」
平田佳也[1]、斎藤達也[1,2]、加藤利佳[1,2]、川島祐介[2,3]、小寺義男[1,2]（[1] 北里大学理学部物理学科生物物理学研究室、[2] 北里大学理学部付属疾患プロテオミクスセンター、[3] 理化学研究所統合生命医科学研究センター）

P－33　「疾患関連タンパク質分析を目指した血中エキソソームのプロテオーム解析」
高橋枝里[1]、斎藤達也[1,2]、川島祐介[2,3]、久米秀明[4]、朝長　毅[4]、小寺義男[1,2]
（[1] 北里大学理学部物理学科生物物理学研究室、[2] 北里大学理学部附属疾患プロテオミクスセンター、[3] 理化学研究所統合生命医科学研究センター、[4] 独立行政法人医薬基盤研究所プロテオームリサーチプロジェクト）

P－35　「The effects of preanalytical variables on serum peptidome profiling by matrix-assisted laser desorption/ionization time-of-flight mass spectrometry」
Sachio Tsuchida[1,2], Mamoru Satoh[1,2], Kazuyuki Sogawa[1,2], Hiroshi Umemura[1,2], Minako Beppu[1,2],Setsu Sawai[1,2], Motoi Nishimura[1,2], Yoshio Kodera[2,3], Kazuyuki Matsushita[1,2], Fumio Nomura[1,2]（[1] Department of Molecular Diagnosis, Graduate School of Medicine, Chiba University, [2] Clinical Proteomics Research Center, Chiba University Hospital, [3] Laboratory of Biomolecular Dynamics, Department of physics, School of Science, Kitasato University）

P－37　「Dried Blood Spot（DBS）による興奮薬のドーピング検査への適用」
小島麻実[1]、岡野雅人[1]、佐藤充彦[1]、西谷泰紀[1]、土肥美智子[2]、陰山信二[1]（[1] 株式会社LSIメディエンス アンチドーピングラボラトリー、[2] 国立スポーツ科学センター メディカルセンター）

P－39　「ESI活性重水素標識試薬を用いる唾液中イブプロフェンの対掌体弁別定量法の開発」
田所弘晃、佐藤真帆、小川祥二郎、東　達也（東京理科大学薬学部）

P－41　「血中NSAIDsのGC/MS分析におけるシリカモノリス固相抽出チップの応用」
長谷川智華[1,2,3]、熊澤武志[2,3]、李　暁鵬[2]、寺田　賢[1]、佐藤啓造[2]、妹尾　洋[3]、黒崎久仁彦[1]（[1] 東邦大学医学部法医学講座、[2] 昭和大学医学部法医学教室、[3] 愛知医科大学医学部法医学講座）

P－43　「法医試料における薬物中毒のバイオマーカー探索」
安部寛子[1]、星岡佑美[1]、須賀香屋子[2]、久保祐子[1]、林田眞喜子[3]、岩瀬博太郎[1,4]
（[1] 千葉大学大学院医学研究院 法医学教室、[2] 株式会社エービーサイエックス、[3] 日本医科大学 法医学教室、[4] 東京大学大学院医学系研究科 法医学教室）

P－45　「LC-MSによる新世代Bcr-Ablチロシンキナーゼ阻害薬の血中濃度測定」
後藤優理[1]、有吉範高[2]、中世古知昭[3]、今井千晶[2]、石井伊都子[2]（[1] 千葉大学大学院薬学研究院 病院薬学研究室、[2] 千葉大学医学部附属病院薬剤部、[3] 千葉大学医学部附属病院血液内科）

P－47　「新規高感度ヘムオキシゲナーゼ活性測定法の開発」
岩森紗希[1]、佐藤恵美子[1,2]、吉成浩一[3]、島田美樹[4]、眞野成康[4]、伊藤貞嘉[2]、佐藤　博[1,2]、高橋信行[1,2]（[1] 東北大学薬学研究科臨床薬学分野、[2] 東北大学医学系研究科腎高血圧内分泌学分野、[3] 東北大学薬学研究科薬物動態学分野、[4] 東北大学薬学研究科病態分子薬学分野・東北大学病院薬剤部）

P－49　「腹膜透析におけるインドキシル硫酸クリアランスに及ぼす因子の検討」
佐藤恵美子[1,2]、森　建文[2]、菅原真恵[2]、大場郁子[2]、小泉賢治[2]、千田真貴子[2]、永沼絵理[2]、佐藤　博[1,2]、伊藤貞嘉[1]（[1] 東北大学大学院薬学研究科臨床薬学分野、[2] 東北大学大学院医学系研究科腎高血圧内分泌学分野）

P－51　「LC-MS/MSによる茶葉抽出液投与ラットにおける網膜中エピガロカテキンガレート(EGCG)含量の測定」
五十嵐一雄[1]、榎本祐子[2]、大瀧　純[3]、青木康博[3]、前野善孝[4]、義澤克彦[2]、螺良愛郎[2]（[1] 一般社団法人医薬分析協会、[2] 関西医科大学第二病理、[3] 名古屋市立大学医学系研究科法医学分野、[4] 中部大学応用生物学部食品栄養学科）

P－53　「質量分析計を用いたMSSAとMRSAの鑑別の試み」
曽川一幸[1,2]、村田正太[2]、中村恵海[2]、上原麻美[2]、佐海知子[2]、瀬川俊介[2]、宮部安規子[2]、齊藤知子[2]、渡邊正治[2]、三田明弘[1]、野村文夫[2,3]（[1] 麻布大学生命・環境科学部、[2] 千葉大学医学部附属病院、[3] 千葉大学大学院医学研究院）

P－55　「質量分析イメージングを用いたNASHモデルマウス腎組織における脂質の可視化」
早坂孝宏[1]、布田博敏[1]、惠　淑萍[1]、千葉仁志[1]（[1] 北海道大学大学院保健科学研究院）

P－57　「大気圧下MALDIに揮発性 *p*-ニトロアニリンを用いると両方のイオンモードでの高解像度リン脂質イメージングが可能になる」
松下祥子[1]、杉山栄二[1]、早坂孝宏[2]、正木紀隆[1]、瀬藤光利[1]（[1] 浜松医科大学医学部解剖学講座細胞生物学分野、[2] 北海道大学大学院保健科学研究院）

P－59　「ポリマー系逆相カラムShodex ODP2 HPを用いた生体試料中低分子薬物のLC/MS分析」
貴家潤治、蒲池元昭（昭和電工株式会社）

14：10 - 14：50　教育講演１：
　演者：東　達也（東京理科大学 薬学部）
　座長：池川繁男（株式会社 玄米酵素 顧問）

Ｌ－２　「低分子化合物のLC/ESI-MS/MS用誘導体化：検出感度の向上と構造微小差の弁別」
　　東　達也（東京理科大学薬学部）

15：05 - 15：45 総　　会

16：00 - 17：30 シンポジウム（２）：
「質量分析による薬物毒物の中毒診断の現状と展望」
　オーガナイザー（座長）：五十嵐一雄（一般社団法人 医薬分析協会）

Ｓ２－１　「病院薬剤部の急性中毒原因物質分析への取り組み」
　　森　博美（大垣市民病院薬剤部）

Ｓ２－２　「死因が薬毒物中毒の可能性がある事例での質量分析器検査の有用性」
　　長谷川弘太郎[1]、阿民勿日他[1]、山岸　格[1]、野澤秀樹[1]、南方かよ子[1]、権守邦夫[1]、
　　鈴木　修[2]、渡部加奈子[1]（[1] 浜松医科大学法医学講座、[2] 浜松医科大学）

Ｓ２－３　「質量分析を用いた薬物中毒診断 ― 法医鑑定医の立場から ―」
　　妹尾　洋（愛知医科大学医学部法医学講座）

17：40 - 18：20　教育講演２：
　演者：Dayan Goodenowe（Phenomenome Discoveries Inc. , Canada）
　座長：朝長　毅（独立行政法人医薬基盤研究所プロテオームリサーチプロジェクト
　　プロジェクトリーダー）

Ｌ－３　「Incorporating Mass Spectrometry into Routine Clinical Chemistry Laboratories: Challenges and Opportunities」
　　Dayan Goodenowe（Phenomenome Discoveries Inc.）

18：30 - 20：30　懇 親 会（４階　天平）

10月17日（金）
8：30　　受付開始
9：00 - 9：40　　モーニングセミナー

モーニングセミナー１：Phenomenome Discoveries, Inc.
MS－1　「Method development of high throughput flow injection tandem mass spectrometry analysis」
（平安･南）　Asuka Mochizuki[1,2], Yasuyo Yamazaki[1], Dayan Goodenowe[1]（[1] Phenomenome Discoveries, Inc., Saskatoon, Saskatchewan, Canada, [2] Department of Molecular Diagnosis, Graduate School of Medicine, Chiba University, Chiba, Japan）

モーニングセミナー２：アジレント・テクノロジー株式会社
MS－2　「より簡便な前処理を目指して。
（平安･東）　自動分注機によるLC/MSサンプルプレップ（精製、消化、脱塩、分画）とHTSバイオマーカー探索」
西潟雅之、前田斉嘉（大阪大学大学院医学系研究科）

10：00 - 11：40　シンポジウム（３）：
「MALDI-TOF MSによる病原微生物の迅速同定の最前線」
オーガナイザー（座長）：中西豊文（大阪医科大学　臨床検査医学）

S３－1　「臨床微生物学に導入されたMALDI-TOF MSによる細菌同定がもたらす臨床効果について」
村田正太[1]、渡邊正治[1]、斎藤知子[1]、宮部安規子[1]、瀬川俊介[1]、佐海知子[1]、上原麻美[1]、中村恵海[1]、野村文夫[1,2]（[1] 千葉大学医学部附属病 検査部、[2] 千葉大学大学院医学研究院分子病態解析学）

S３－2　「MALDI-TOF MSによる非結核性抗酸菌臨床分離株同定法の前処理法最適化の実際」
東山智宣[1]、中西豊文[2]（[1] 大阪医科大学附属病院 中央検査部、[2] 大阪医科大学臨床検査医学教室）

S３－3　「細菌検査に質量分析装置を導入したことによる診療への投資対効果の検証」
中川俊正、北里実義、木口良章（淀川キリスト教病院 臨床検査科）

S３－4　「MALDI-TOF MSによる *Streptococcus pneumoniae /oralis /mitis* の鑑別の試み」
松本竹久[1]、太田悠介[2]、本田孝行[1]（[1] 信州大学医学部附属病院 臨床検査部、[2] 信州大学大学院医学系研究科保健学専攻）

12：00 - 12：40　ランチョンセミナー

ランチョンセミナー３：シーメンスヘルスケア・ダイアグノスティクス株式会社

LS－3（平安･東）「微生物研究分野における質量分析の応用～植物共生メタノール資化性菌の質量分析による分類」
谷　明生（岡山大学資源植物科学研究所）

ランチョンセミナー４：ブルカー・ダルトニクス株式会社

LS－4（平安･南）「組織イメージングにFT-ICR-MSを用いることの有用性／MALDI TOF MSによる微生物同定と新しいアプリケーション」
森下宜彦、松山由美子（ブルカー・ダルトニクス株式会社）

13：00 - 14：00　ポスター発表（３階　飛鳥）

【偶数演題】

P－2　「UPLC-MS/MSによる軽症メチルマロン酸血症患者における酵素活性測定法の検討」
後藤佳奈[1]、前田康博[1]、伊藤哲哉[2]、中島葉子[2]、前田陽子[1]、杉山成司[3]、堀田祐志[1]、木村和哲[1]（[1] 名古屋市立大学大学院薬学研究科、[2] 藤田保健衛生大学医学部 小児科、[3] 愛知学院大学薬学部）

P－4　「先天性心疾患の術後患者の尿中有機酸分析で認められる由来不明ピーク」
長谷川有紀、坊　亮輔、田部有香、中嶋滋記、安田謙二、山口清次（島根大学医学部小児科）

P－6　「ヒト好中球活性化におけるアラキドン酸遊離とホスホリパーゼA_2の役割」
小林哲幸[1,2]、鬼澤慶子[1]、竹田宏美[2]、三上さおり[3]、相星淳一[3]（[1] お茶の水女子大学大学院人間文化創成科学研究科、[2] お茶の水女子大学理学部生物学科、[3] 東京医科歯科大学医学部附属病院）

P－8　「非Ｂ非Ｃ型肝細胞がん患者の血清ステアリン酸-パルミチン酸濃度比はその他の肝細胞がん患者に比べて高い」
杉山栄二[1]、松下祥子[1]、柴崎　泰[2]、松田浩一[3]、今野弘之[2]、瀬藤光利[1]（[1] 浜松医科大学解剖学講座細胞生物学分野、[2] 浜松医科大学外科学第二講座、[3] 東京大学医科学研究所ヒトゲノム解析センターシークエンス技術開発分野）

P－10　「ESI増強重水素標識試薬を用いた尿中ビタミンD_3代謝物のLC/MS/MS分析法の開発」
大木　智、篠田健太、小川祥二郎、東　達也（東京理科大学薬学部）

P－12　「3-oxo-Δ^4-ステロイド核化合物のLC-ESI-MS/MS高感度誘導体化法の検討」
武井　一[1,2]、入戸野　晋[1]、李　暁鵬[1]、熊澤武志[1]、村井　毅[3]、黒澤隆夫[3]、飯田　隆[4]、入戸野　博[1,2]、佐藤啓造[1]（[1] 昭和大学医学部法医学教室、[2] 順伸クリニック胆汁酸研究所、[3] 北海道医療大学薬学部、[4] 日本大学文理学部化学科）

P－14　「LC/ESI-LIT-MS/MSにおけるPQD及びCID測定による尿中硫酸抱合型ステロイドの分析」
三田村邦子[1]、蔵渕　慧[1]、上田麻美子[1]、池川繁男[2]、山本哲志[1]、多賀　淳[1]（[1] 近畿大学薬学部、[2] 株式会社玄米酵素中央研究所）

P－16　「DAPTAD誘導体化を用いたLC-MS/MSによる血清ビタミンD代謝物の４項目同時定量」
佐藤　守[1]、石毛崇之[2]、小川祥二郎[3]、西村　基[2]、松下一之[2]、東　達也[3]、野村文夫[1,2]（[1] 千葉大学大学院 医学部附属病院 疾患プロテオミクスセンター、[2] 千葉大学大学院 医学研究院 分子病態解析学、[3] 東京理科大学 薬学部 臨床分析科学研究室）

P－18　「合成カンナビノイドMAM2201投与ラットの大脳メタボローム解析」
鈴木　圭[1]、財津　桂[1]、林　由美[2]、中山　浩[1]、服部南平[1]、高原里奈[1]、草野麻衣子[1]、土橋　均[3]、石井　晃[1]（[1] 名古屋大学大学院医学系研究科 法医生命倫理学、[2] 名古屋大学大学院医学系研究科 医療技術学専攻 病態解析学講座、[3] 大阪医科大学 予防社会医学講座 法医学教室）

P－20　「合成カンナビノイドMAM2201を投与したラットの血漿メタボローム解析」
服部南平[1]、財津　桂[1]、林　由美[2]、中山　浩[1]、鈴木　圭[1]、高原里奈[1]、草野麻衣子[1]、土橋　均[3]、石井　晃[1]（[1] 名古屋大学大学院医学系研究科 法医生命倫理学、[2] 名古屋大学大学院医学系研究科 医療技術学専攻 病態解析学講座、[3] 大阪医科大学 予防社会医学講座 法医学教室）

P－22　「安定同位体と超高速GC-MS/MSシステムを用いた血漿中の代謝物測定」
海野結実[1]、川名修一[1]、工藤恭彦[1]、西海　信[2]、吉田　優[2,3]、尾島典行[1]（[1] 株式会社島津製作所 分析計測事業部、[2] 神戸大学大学院医学研究科 内科学講座 消化器内科学分野、[3] 神戸大学大学院医学研究科 内科系講座 病因病態解析学分野）

P－24　「ウォーターズのメタボロミクス向けソリューションとその臨床応用」
寺崎真樹、タナイ パクストン（日本ウォーターズ株式会社）

P－26　「SRM/MRM法を用いた血中超微量アルツハイマー病サロゲートマーカーAPL1βの絶対定量系の確立と臨床応用への展望」

佐野聖三[1]、橋本裕希[1]、田上真次[2]、大河内正康[2]、熊谷久美子[3]、常見雅彦[3]、猪鼻祐介[4]、飯伏　翼[4]、朝長　毅[1]（[1] 独立行政法人医薬基盤研究所プロテオームリサーチプロジェクト、[2] 大阪大学大学院・医学系研究科・精神医学教室、[3] 株式会社ペプチド研究所、[4] 株式会社島津製作所）

P－28　「ナッツアレルギーにおけるアレルゲンタンパク質の解析」

安東圭奈美[1]、曽川一幸[1]、佐藤　守[2]、三田明弘[1]、下条直樹[2]、野村文夫[2]（[1] 麻布大学生命環境科学部、[2] 千葉大学大学院医学研究院）

P－30　「安定同位体標識タグを用いた血中診断マーカーペプチドの探索」

斎藤達也[1]、日堂佑哉[1]、加藤利佳[1,2]、川島祐介[2,3]、南田　諭[4]、松本和将[4]、岩村正嗣[4]、小寺義男[1]（[1] 北里大学理学部生物物理学研究室、[2] 北里大学理学部附属疾患プロテオミクスセンター、[3] 理化学研究所統合生命医科学研究センター、[4] 北里大学医学部泌尿器科）

P－32　「安定同位体標識法を用いたストレス障害モデルマウス血漿中のプロテオーム変動の解析」

小林千治[1]、加藤利佳[1,2]、斎藤達也[1,2]、川島祐介[2,3]、板倉　誠[4]、山森早織[4]、永山博通[4]、飯田諭宜[5]、宮岡　等[5]、高橋正身[4]、小寺義男[1,2]（[1] 北里大学理学部物理学科生物物理学研究室、[2] 北里大学理学部附属疾患プロテオミクスセンター、[3] 理化学研究所統合生命医科学研究センター、[4] 北里大学医学部生化学研究室、[5] 北里大学医学部精神科）

P－34　「プロテオーム解析を用いた歯周病疾患マーカー探索」

土田祥央[1,2]、佐藤　守[1,2]、曽川一幸[1,2]、川島祐介[3]、石毛崇之[2]、別府美奈子[1,2]、澤井　摂[1,2]、西村　基[1,2]、小寺義男[1,3]、松下一之[1,2]、野村文夫[1,2]（[1] 千葉大学医学部附属病院疾患プロテオミクスセンター、[2] 千葉大学医学部医学研究院分子病態解析学、[3] 北里大学理学部生体分子動力学研究室、[4] 千葉大学分析センター）

P－36　「質量分析計を活用したがん培養細胞の分泌物解析とサイトケラチン断片の探索」

陳　健嘉[1]、西村　基[1,2]、西村里美[1]、石毛崇之[1,2]、佐藤　守[1]、松下一之[1,2]、野村文夫[1,2]（[1] 千葉大学大学院医学研究院 分子病態解析学、[2] 千葉大学医学部附属病院 検査部・遺伝子診療部）

P－38　「Serum and muscle metabolomics profiling: A novel method for estimating post-mortem intervals」

Richard H. Kaszynski[1,2], Shin Nishiumi[3], Takeshi Kondo[1], Motonori Takahashi[1], Azumi Kuse[1], Migiwa Asano[4], Masaru Yoshida[3], Takeshi Azuma[3], Yasuhiro Ueno[1]（[1] Kobe University Graduate School of Medicine, Department of Legal Medicine, [2] Harvard Medical School, Massachusetts General Hospital, [3] Kobe University Graduate School of Medicine, Department of Gastroenterology, [4] Ehime University Graduate School of Medicine, Department of Legal Medicine）

P－40　「血液中のピロリジノカチノン誘導体（PV9, PV8, PV4, PVT）のMALDI-Q-TOF-MSによる分析」

南方かよ子[1]、鈴木雅子[2]、野澤秀樹[1]、山岸　格[1]、長谷川弘太郎[1]、阿民勿日他[1]、権守邦夫[1]、渡部加奈子[1]、鈴木　修[1]（[1] 浜松医科大学大学法医学、[2] 浜松医科大学実験実習センター）

P－42　「ヒト血中ベンゾジアゼピン系薬物の高感度分析におけるUFLC-IDA-MRM/EPI法の有用性」

李　暁鵬[1]、熊澤武志[1]、長谷川智華[2]、入戸野　晋[1]、武井　一[1]、庄司幸子[1]、佐藤啓造[1]（[1] 昭和大学医学部法医学教室、[2] 東邦大学医学部法医学講座）

P－44　「Dried Blood Spot技術の法医薬物スクリーニングへの応用」

久保祐子[1]、安部寛子[1]、小林和博[1]、斉藤久子[1]、岩瀬博太郎[1,2]（[1] 千葉大学大学院医学研究院 法医学教室、[2] 東京大学大学院医学系研究科 法医学教室）

P－46　「飲酒後の尿中エチルグルクロニドとエタノールの測定」

小川匡之、岩井雅枝、中島　文、長嶋　愛、水谷真也、山口智大、和田洸也、服部秀樹、妹尾　洋（愛知医科大学医学部）

P－48　「尿からメコニンが検出された１剖検例」

前橋恭子、淺尾康隆、立松依宙、岩楯公晴（東京慈恵会医科大学法医学講座）

P－50　「LC-QTOFMSを用いたacetylfentanyl代謝物構造推定が有効であった剖検事例」

星岡佑美[1]、安部寛子[1]、須賀香屋子[2]、滝埜昌彦[3]、本村あゆみ[1]、岩瀬博太郎[1,4]（[1] 千葉大学大学院医学研究院 法医学教室、[2] 株式会社エービーサイエックス、[3] アジレントテクノロジー株式会社、[4] 東京大学大学院医学系研究科 法医学教室）

P－52　「MDA系薬物によるシトクロムP450分子種のmechanism-based inhibition評価
―MDA系薬物と覚せい剤との相互作用―」
宮本和奈[1,2]、山下琢矢[1]、高馬里奈[1]、福田麻裕[1]、辻川健治[3]、岩田祐子[3]、井上博之[3]、糟谷史代[1]（[1] 神戸学院大学薬学部、[2] (株)テクノプロ、[3] 科学警察研究所）

P－54　「MALDI-TOF MSを用いた細菌性髄膜炎の起因菌迅速同定」
別府美奈子[1,2]、澤井　摂[1,2]、瀬川俊介[1,2]、村田正太[1]、曽川一幸[2]、渡邊正治[1]、西村　基[1,2]、佐藤　守[2]、松下一之[1,2]、野村文夫[1,2]（[1] 千葉大学医学部附属病院 検査部・遺伝子診療部、[2] 千葉大学大学院医学研究院 分子病態解析学）

P－56　「大腸癌辺縁における多価不飽和脂肪酸含有ホスファチジルイノシトール集積の解明」
平出貴乗[1,2]、坂口孝宣[1]、池上浩司[2]、杉山栄二[2]、正木紀隆[2]、脇　紀彦[2]、武田真[1,2]、柴崎　泰[1,2]、森田剛文[1,2]、今野弘之[1]、瀬藤光利[2]（[1] 浜松医科大学第２外科、[2] 浜松医科大学解剖学細胞生物学分野）

P－58　「重水素化エボジアミンの合成とLC/MS/MSによるエボジアミン定量への応用」
平野正悟[1]、山下　均[2]、堤内　要[1]（[1] 中部大学応用生物学部、[2] 中部大学生命健康科学部）

P－60　「イメージング及びメタボローム測定のための動物臓器の代謝固定法の最適化」
本多久楽々[1]、杉浦悠毅[1,2]、末松　誠[1]（[1] 慶應義塾大学医学部医化学教室、[2] JSTさきがけ）

14：15 - 15：05　招待講演：
演者：平野　久（横浜市立大学 先端医科学研究センター）
座長：野村文夫（千葉大学大学院医学研究院分子病態解析学　教授）

L－1　「分析技術の発達により見えてきた翻訳後修飾異常と疾患」
平野　久（横浜市立大学大学院生命医科学研究科・先端医科学研究センター）

15：10 - 15：30　奨励賞受賞講演：
座長：丹羽利充（修文大学健康栄養学部管理栄養学科　教授）

L－4　「微量生体分子のイメージング質量分析による可視化」
杉浦悠毅（慶應義塾大学 医学部 医化学教室 / JST さきがけ）

15：45 - 17：15　テクニカルワークショップ
「質量分析技術関連の最新機器および各種商品の紹介」
座長：糟谷史代（神戸学院大学薬学部）
小寺義男（北里大学理学部）

WS－1　「リン脂質除去による血清中ビタミンD代謝物の高感度分析」
松本真理子[1]、Craig Aurand[2]、David Bell[2]、Anders Fridstrom[3]、Rudolf Kohling[3]
（[1] シグマアルドリッチジャパン合同会社、[2] Sigma-Aldrich/Supelco、[3] Sigma-Aldrich Switzerland）

WS－2　「バイオタージ社製前処理製品を使用したLC-MS/MSによる最新分析手法の紹介」
金子舞子（バイオタージ・ジャパン株式会社）

WS－3　「急性薬毒物中毒における機器分析としてのLC/MS/MSの可能性」
小梶哲雄（株式会社エービー・サイエックス）

WS－4　「GC/MSを用いたバイオマーカー分析例の紹介」
橋本将宏、草井明彦（日本電子株式会社）

WS－5　「高分解能Orbitrap LC-MSから必要な情報を得るためのmzCloudソフトウェア」
窪田雅之（サーモフィッシャーサイエンティフィック株式会社）

WS－6　「多検体測定に超高速測定を！」
前田斉嘉（アジレントテクノロジー株式会社）

WS－7　「GC-MSまたはGC-MS/MSを用いたスクリーニング用データベース」
中川勝博、川名修一、田中幸樹、宮川治彦（株式会社 島津製作所）

WS－8　「Straight Injection Technology™を搭載したUHPLCのご紹介」
杉藤良一（株式会社資生堂　フロンティアサイエンス事業部）

WS－9　「大気圧直接質量分析DART-MSのメタボロミクスへの応用」
塩田晃久、坂倉 幹始（エーエムアール株式会社）

WS－10　「LC/MSに於ける病理凍結切片等を用いた、高感度微量サンプル分析例」
内藤義治（(株)エル・イー・テクノロジーズ）

WS－11　「オミックス解析における前処理及び測定ツールの紹介」
鈴木健一、太田茂徳、宮崎将太、由井夕湖、大平正義（ジーエルサイエンス）

WS－12　「高分解能UHR-Q-TOF/MSの新製品Impact Ⅱによるプロテオミクスアプローチ」
志村信之（ブルカーダルトニクス株式会社）

WS－13　「MALDI-TOF MSをベースにした完全な医療機器の誕生　－VITEK MS－」
吉田欣史（シスメックス・ビオメリュー株式会社）

WS－14　「細菌迅速同定用 前処理キットrapid BACpro®のご紹介」
野田健太、芦澤一穂、新井敏史、新保陽平、柴田直哉、高山千香夫（ニットーボーメディカル株式会社）

17：15 -　閉会の辞

第40回 日本医用マススペクトル学会年会のお知らせ

年会長：瀬藤　光利（浜松医科大学・解剖学講座細胞生物学分野）

会　期：平成27年９月17日（木）、18日（金）
（９月19日：医用質量分析認定士　第３回講習会開催予定）

場　所：アクトシティ浜松 コングレスセンター

日本医用マススペクトル学会　JSBMS Letters Vol.39 Supplement, 2014
第39回日本医用マススペクトル学会年会　プログラム・抄録集

発　行　日：平成26年９月１日
編　集　者：第39回日本医用マススペクトル学会年会
（年会長）野村文夫
発行責任者：丹羽利充
編集委員会：（委員長）瀬藤光利／浅井清文／有田　誠／五十嵐一雄／伊藤哲哉／
妹尾　洋／谷口寿章／中西豊文
発　行　所：日本医用マススペクトル学会事務局
〒491-0938　愛知県一宮市日光町６
修文大学　健康栄養学部内
E-mail: jsbms.office@gmail.com
ホームページ：http://www.jsbms.jp/
印　刷　所：株式会社 正文社
〒260-0001　千葉市中央区都町１－10－６
TEL／043-233-2235　FAX／043-231-5562